

今年も残り1ヶ月となりました。みなさんにとってどんな1年でしたか？来年もよろしくお祈りします。

## ★ 喘息発作がなくなれば薬は止めていいのでしょうか？

… **ダメダメ！こんなことが実際、西淀病院でもありました。**

30歳代のお母さんの話です。お産が済むまでお医者さんの言うとおりにパルミコート(吸入ステロイド)を1日2吸入していました。お産が終わったあと母乳で育て始めるとこの女性は心配になってきました。先生は「**パルミコートはやめたらあかん**」といていたけど母乳に出て赤ちゃんに影響するのではと思い、パルミコートをやめてしまいました。

最初はよかったのですが1月ほどしてすごく大きな発作が起こり救急車で運ばれ、人工呼吸器をつけてやっと一命を取り留めました。もう少しで赤ちゃんを孤児にさせてしまうところでした。

この話は、3年ぐらい前に実際当院であった話です。

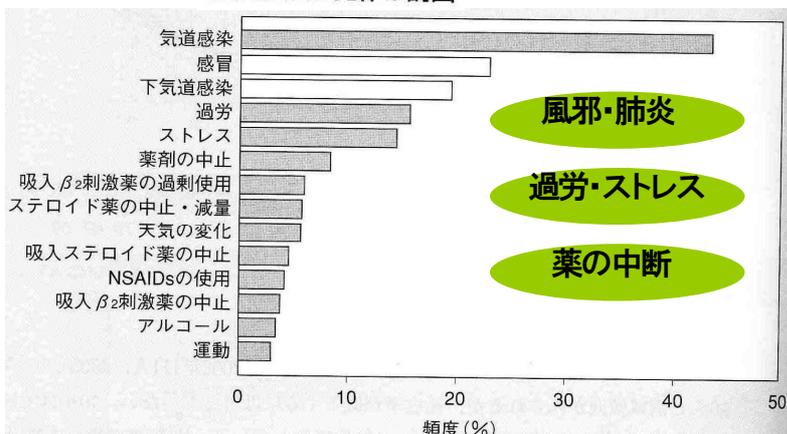
**吸入ステロイドを自己判断でやめるのは本当に危険**ですよね。

## 喘息の発作のために今でも年間2400人の人が死亡

喘息による死亡者は右図のように年々減ってきています。減少した原因として1980年代から吸入ステロイドが発売され、少しずつ普及した結果といわれています。吸入ステロイドの販売が増えるにつれて死亡数は減っています。



死亡に至る発作の誘因

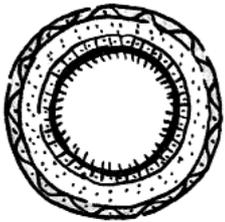


喘息発作による死亡の例では、発作の誘因は、気道感染、ストレス、過労で、その他にステロイド薬の中止、アスピリンの服用、β刺激吸入薬の過剰使用などがあります。

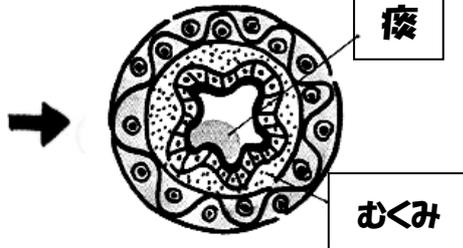
なぜステロイド薬の中止が喘息死の原因になるのでしょうか？

なぜ発作がないときも薬を続けるのでしょうか？

正常な気管支



喘息発作の時の気管支



こんなふうに狭くなったとき空気の出入りで  
ヒューヒュー、ゼイゼイという音がします

気管支が縮んで通り道が狭くなる。  
昔はそう思われていましたが...

実は！

気管支が炎症を起こして、むくんだり、  
ただれたり、痰が出てくるのが狭くする  
原因とわかってきました。



喘息の本当の姿は気道粘膜のアレルギー性の炎症であり、気管支の収縮はその結果であることが

わかってきたため、炎症を抑えてまず発作を起こさせないようにする治療（予防療法）が  
大切である という考え方が主流になってきました。

吸入ステロイドはまさにこの働きをするお薬 なのです。

一度喘息発作を起こすと気管支の粘膜に傷が残って、刺激に対して非常に敏感になり、次々に発作を  
起こしやすくなります。また気管支粘膜の傷は治りにくいので、発作の時だけの治療では、粘膜の傷が  
残ったままになり、下手をすれば喘息そのものを悪化させ治りにくくさせてしまうこともあります。

このような考えから、発作が起こらないようにすることが大切だと言われるようになってきました。

**勝手に吸入ステロイドなどの薬を中止したり、  
発作止めの吸入薬ばかりを使ったりしないように注意！**

